

# 総務教育常任委員会資料

(平成31年3月6日)

【件名】

- ・美術品の購入について（博物館）…………… 1
- ・企画展「ニューヨーク・アートシーン」の開催について（博物館）…………… 3

教育委員会



# 美術品の購入について

平成31年3月6日  
博 物 館

鳥取県美術資料収集評価委員会を開催し、美術品取得基金を活用して購入する美術資料の候補作品(4点)を決定しましたので、下記のとおり報告します。

## 記

### 1 鳥取県美術資料収集評価委員会

(1)日 時 平成31年2月22日(金)午後1時30分から午後4時30分まで

(2)場 所 鳥取県立博物館 大会議室

(3)概 要 各委員に候補作品の収集の可否について協議いただき、下記2のとおり購入候補作品を決定しました。

### 2 購入予定作品

NO	分野	作家名	購入理由	作品名	制作年	材質技法 (員数)	寸法H×W×D (cm)	購入予定 価格 (税込・千円)
1	近世 絵画	ひじかたとうれい 土方 稻嶺 (1741~ 1807)	【鳥取県に関係した近世以前の美術作品】 ●鳥取藩の家老・荒尾志摩の家臣であった土方家に次子として生まれる。江戸で宋紫石に学び、のち京都へ移る。晩年、鳥取藩に藩絵師として召し抱えられる(五人扶持)。鳥取画壇の祖とも言われ、江戸時代の鳥取の画家の中で画力・全国的な知名度ともに最も高い画家である。 ●鑑賞価値が高く、鳥取藩の御用を想像されるミュージアム・ピースにふさわしい作品。	ぼたんくじゃくず 牡丹孔雀図	江戸時代 後期	紙本墨 画淡彩 (一幅)	92.6×168.9	8,000
2	近世 絵画	おき いちが 沖 一峨 (1796~ 1851/55)	【鳥取県に関係した近世以前の美術作品】 ●鳥取藩江戸詰の御用絵師であった沖家の七代目。作風は狩野派をベースに、琳派や南蘋派、円山四条派ややまと絵など、当時画壇にあったあらゆる画風を摂取し、多様な画風を展開した。 ●大幅であり、華やかかつ見栄えもよく、ミュージアム・ピースとしてふさわしい作品。	きよすいえんず 曲水宴図	江戸時代 後期	絹本着 色 (一幅)	156.0×85.0	3,780
3	近代 洋画	こうだ かつた 香田 勝太 (1885~ 1946)	【鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品】 ●鳥取県日野郡根雨原村(現・西伯郡伯耆町)出身。東京美術学校西洋画科に入学し、黒田清輝の指導を受ける。大正15(1926)年より3年間にわたってヨーロッパに游学し、風景画を制作した。旧溝口町にて「麗人会」を発足、会の中心的な存在として文化事業に携わった。 ●小振りであるが、滞欧作として貴重な作品。	イーブル	1928年 (昭和3年)	油彩・板 (一面)	36.7×45.3	540
4	近代 洋画	まえた かんじ 前田 寛治 (1896~ 1930)	【鳥取県にゆかりのある近代作家の美術作品】 ●東伯郡北栄町に生まれる。東京美術学校に入学し、藤島武二に師事。1923年未渡仏。1926年に里見勝蔵、佐伯祐三らと「1930年協会」を結成。以後、1930年協会展と帝展の両方に出品を続ける。1930年、33歳で病没。 ●滞欧作として貴重であり、前田寛治を網羅的に収集している鳥取県立博物館として重要な作品。	フランス風景	1925年 (昭和元 年)	油彩・カン ヴァス (一面)	12号 45.5×60.5	3,996
計					4点			16,316

### 3 参考 近年の購入状況

年度	購入金額	内 訳	
H29	30,285	12点	絵画7点、彫刻5点
H28	0	なし(ただし、受贈した興国寺書院換絵の修復費をH29年度とH30年度に基金より支出。)	
H27	28,890	7点	絵画4点、彫刻3点
H26	24,172	19点	絵画16点、工芸3点
H25	29,258	5点	絵画4点、彫刻1点

平成30年度 美術資料収集候補作品画像

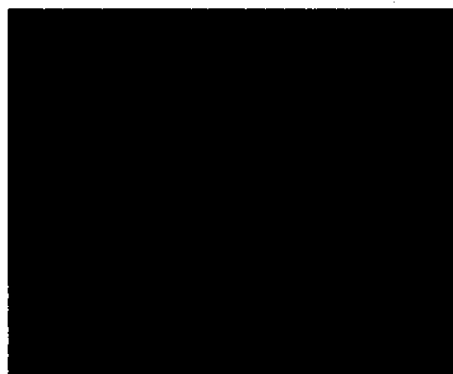
【購入候補作品】



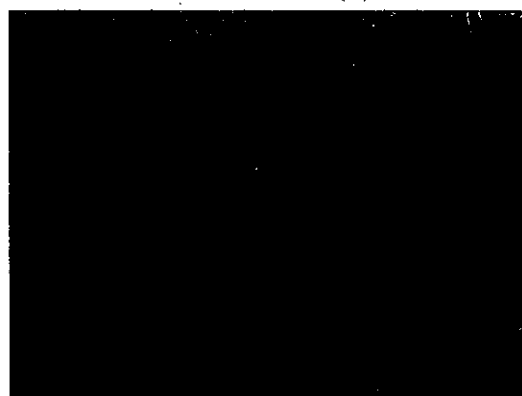
1 土方稻嶺  
《牡丹孔雀図》



2 沖一峨《曲水宴図》



3 香田勝太《イーブル》



4 前田寛治《フランス風景》

## 企画展「ニューヨーク・アートシーン」の開催について

平成31年3月6日  
博 物 館

企画展「ニューヨーク・アートシーン ～ロスコ、ウォーホルから草間彌生、パスキアまで 滋賀県立近代美術館コレクションを中心に～」を以下のとおり開催します。

### 1 趣 旨

第二次世界大戦後の美術において、ニューヨークは多くの画期的な表現を生み出しました。大戦中、戦火を逃れてヨーロッパから移り住んだ多くの作家たちによって伝えられた最先端の表現はアメリカの若い作家たちを刺激し、新しく意欲的な表現へと道を開きました。1940年代後半より明確な運動として浮かび上がる抽象表現主義はアメリカ美術の最初の高まりであり、画家たちはアクションと呼ばれる激しい身振り、あるいはカラーフィールドと呼ばれる茫漠とした色面を用いてキュビズムとシュルレアリスム（超現実主義）を乗り越えようとしてきました。

抽象表現主義に続いて、ニューヨークでは次々に新しい表現が勃興し、世界的な注目を浴びました。ネオ・ダダ（生活と芸術を等価とみなす）とポップ・アートは日常性や具象性を美術に再び導入し、一群の色面抽象絵画が伸びやかな表現として実現される一方、ミニマル・アートは美術の極限的な在り方を私たちに提示しました。第二次世界大戦後、ニューヨークはパリに代わるモダンアートの首都として現代美術をリードし、そこには多くの日本人作家も含まれていました。その中には草間彌生や河原温のように、今日、世界的な作家とみなされる作家も多く存在します。

本展においては、現在改修のため休館中の滋賀県立近代美術館が所蔵する日本屈指のアメリカ現代美術コレクションを中心に、ニューヨークが生み出した現代美術の優品を紹介します。

- 2 会期等 平成31年（2019年）4月13日（土）～5月19日（日）  
※休館日：5月7日（火） 開館日数：36日間
- 3 会 場 鳥取県立博物館 第1・第2特別展示室
- 4 主 催 「ニューヨーク・アートシーン」実行委員会（鳥取県立博物館、和歌山県立近代美術館、徳島県立近代美術館、埼玉県立近代美術館）
- 5 観覧料 一般800円（団体600円）
- 6 出品内容 滋賀県立近代美術館の収蔵作品を中心に和歌山県立近代美術館、大阪新美術館建設準備室、国立国際美術館の所蔵作品約100点で構成
- 7 関連事業 学芸員によるギャラリートーク、映画上映会、特別講演会、アートセミナーを開催予定

